

平和を守れ!憲法をいかそうの声、強く、太く

「憲法をいかそう大集会@上越」が4月30日、リージョンプラザで開催されました。280余人が参加。宇都宮健児弁護士を迎えて、民主主義の大切さ、憲法改悪を許さないために大事なことを学び、高校生平和大使の神谷優季さんや真宗大谷派9条の会の金子光洋さんなどのリレートークを聴きました。

宇都宮さんは講演の中で、今年の最大の政治課題が憲法「改正」の発議を許すかどうかにあるとあり、最近の政治状況を詳しく語りました。憲法改悪勢力が教育費の問題や災害対策などを例に挙げながら改悪の必要性を語っていることについては、憲法を「改正」しなくても教育の無償化、災害時の対策の権限を現場に移すことが可能であるなどと、ひとつひとつ反論しました。また、「文民統制のきかない自衛隊を合憲化させるなんてとんでもない」と訴えました。

宇都宮さんの講演は誠実な人柄がにじみでていて、好感が持てました。



金子光洋さんは沖縄へ行ってきたことに触れ、「戦争の現場をしっかりと見て、おじい、おばあが基地に反対している」とし、「国家に支配されている、搾取されている、人権侵害されている、生命の尊厳を損なわれている、そういう人たちの感覚、声を聴いていくことが大事」とのべました。

主婦の畠山郁美さんは、「改憲は戦争に向かうことになる。それはさせたくない。未来の子どもたちにいまできることはこれ、その一心で3000万署名に参加している」といまの思いを語りました。

神谷優季さんは、「日本憲法はこれからも大切にしていけるべき宝物。平和のバトンをつなぐのは私たちの役目」と訴えました。原稿なしで、しっかりとした主張をする姿に参加者は「たいしたもんだ」と絶賛でした。



「ホーデー上越集会所」が1日、雁木通りプラザで行われました。会場には労組組合員など約80人が参加しました。集会では、実行委員長の前田辰夫地区労連議長が、「いま安倍政権が成立させようとしている働き方改革一括法案は働かせ改革で過労死をまねく」と批判しました。日本共産党上越地区委員会を代表して平良木哲也市議（写真）が、「改ざん、隠蔽、ねつ造にセクハラ。ひとつだけでも退陣に値するの4つも。退陣させるためにみなさんと共に闘っていく」と決意を表明しました。



憲法改悪反対などを訴え

ホーデー上越集会所

【ツクバネウツギ】スイカズラ科の落葉低木。漢字で「衝羽根空木」と書きます。花期は4～6月で、細長いラッパ状の花を咲かせます。種子は黒く、羽根突きで使う羽根にそっくり。写真は吉川区代石にて撮りました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1856 2018.5.6
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見える国」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五〇四回

母の出番

「はあーどっこいしょ」。長座布団を南側の廊下に引つ張ってきた母は、気合を入れて座りました。五月の上旬、ある晴れた日の夕方のことです。

この日の朝、わが家では近くのKさんから筍(たけのこ)をもらっていました。母の頭の中にはその筍が玄関に置いてあることが入っていて、コタツで寝ころんでいても気にしていたようです。

「とちや、玄関から筍持ってきてくれ」と言う、母はコタツから抜け出し、まず台所から包丁を持ってきました。続いて、コタツのそばにある長座布団のひとつを廊下に引き寄せたのです。

ビニール袋に入った筍は大小五本、ずしりとした重さがありました。筍は母が作業をする廊下まで私が運びました。「はい、持ってきて来たよ」と言うと、母は身を乗り出し、袋から筍をすべて取り出しました。

そのうち一番大きい一本をぐいっと引いた母は、包丁で手前から先の方へと筍の皮に切れ目を入れました。かなり力があるようで、ぐっ、ぐっ、ぐっと包丁を押ししていきます。まさに筍をさばくという感じ。母は切れ具合を確かめた後、再び包丁で切れ目をより深くしました。

最初の一本に切れ目を入れ終わった時点で、「おまん、何本かまうが」と母に尋ねました。もらった五本、すべてを処理するとなると、たいへんな作業となると思っただけです。すると、母は私が生の筍をほしうと思っただけで、「おまん、一本ほしうどき」と答えると、「ほしや、みんな皮むいちやうかな。こしやっちやう」そう言うので、作業を続けました。

筍の皮に切れ目を入れたあとの作業は皮むきです。母は包丁を脇に置き、両手で皮

をむきはじめました。ぱりっ、ぱりっという音がすると同時に、薄甘い、生の香りがぷーんと漂いました。

自分の股に筍をはさみ、先っぽから徐々に根元の方へと皮をむいていく母。むきはじめると、すぐに白っぽい筍の実そのものが出てきます。ほぼむき終わった段階で、母は先っぽから一五センチほどのところを指し、「こっから刺身だな」と言い、すばくと切り落としました。

転がった部分は筍の中でも最も柔らかく、美味しい部分です。「茹でて、ワサビを入れた醤油をつけて食べや、うんめこて」母はそう言うって片付けました。続いて、根に近い方からの輪切りです。左手で少しずつタケノコを回しながら切る母の姿を見て、年季が入っていると思いました。

筍一本の皮むきの所要時間は約一〇分。むき終わったちようどそのとき、防災無線から、「春の小川はさらさらゆくよ」と曲が流れてきました。午後五時です。廊下の外ではカエルたちも鳴いていました。

一本目の皮むきが終わってから、私は少し散歩に出かけてきました。家を離れたのは五〇分間くらいだったでしょうか。戻ってみると、廊下には皮むきが終わった白い筍が転がっていました。それを見て私が「うわー」という声をあげると、母は「うんまげだねかな。食ってみない」と言っていました。小さく切った筍の先っぽを私に渡しました。それを口に入れた瞬間、びっくりしましたね。とても柔らかく、お菓子のような甘さがあったからです。

筍をもらった日、じつは母の体調は芳しくありませんでした。でも、筍を見ただけで母の気持ちにスイッチが入りました。筍料理は自分の出番、まかせておきなさい。筍には母を動かす力がありました。

素敵なシフォンケーキ

2日の午前、市役所に向かう途中、県立吉川高等特別支援学校に寄りました。この日は生徒たちがスタッフのハッピーカフェでした。区内外から大勢のお客さんが訪れていましたね。ここでは、お客さんの1人が、「春よ来い」のこと、上越タイムスに載ったね、と声をかけてくださいました。うれしかったです。写真はシフォンケーキです、スプーンとフォークにパウダーでもかけたのでしょうか、食べるのがもったいないくらい素敵なもりつけでした。



日本の平和展2018

新潟から早く帰ることができたので、3日の夕方、「日本の平和展2018」を観てきました。会場は高田図書館市民ギャラリーです。写真、油絵、墨絵、陶器、さをり織りなど平和を訴える素敵な作品がいっぱいありましたね。会場では、幸運なことに、2



人の作者の方から作品解説をしていただきました。また、日本共産党議員団の平良木哲也市議と一緒にになりました。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	4月25日(水)	5月2日(水)
上越南消防署	0.047	0.050
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.057	0.043
頸南消防署	0.060	0.050
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.053	0.040